

学校法人 加計学園

平成19年度事業報告

【 倉敷芸術科学大学専門学校 】

I. 事業の概要（全般）

創立4年目を向かえ、建学の理念に基づき、伊藤新校長のもと、基本に立ち返り、「食と器のスペシャリスト」の育成に努めました。

平成20年度に向けて校名を「倉敷 食と器 専門学校」へ変更する届出を行いました。また、より専門性を重視した教育課程に変更し、学科名称を「高度調理フードコーディネーター学科」、「高度製菓製パン学科」、「高度陶芸ガラス創作学科」へ変更する届出を行いました。

副校長が学生の生活や退学者をなくす指導をしました。しかし、退学者数は昨年度と同数でした。

II. 学校の概要

1. 学生の定員現員数

（平成19年5月1日現在）

課 程	定員数		現員数		
	入学定員	収容定員	1年	2年	合計
衛生専門課程 （調理・フードコーディネーター学科、製菓・製パン学科）	80	160	44	48	92
文化・教養専門課程 （陶芸・ガラス創作学科）	20	40	10	6	16
合 計	100	200	54	54	108

（単位：人）

2. 学年暦

	春季休業	入学式	夏期休業	冬期休業	学年末休業	卒業証書授与式
倉敷芸術科学大学専門学校	4月1日 ＼ 4月4日	4月5日	7月25日 ＼ 8月31日	12月24日 ＼ 1月7日	3月21日 ＼ 3月31日	3月23日

Ⅲ. 各事業の概要

1. 教育活動の進捗状況

- (1) 調理・フードコーディネーター学科は、大手食品メーカーの依頼による商品開発を実施し、事業を拡張しました。
- (2) 製菓・製パン学科は、チボリ公園内に倉敷芸術科学大学起業学科と本校とのコラボレーションによるケーキショップ「倉芸工房」を平成19年10月19日に開設しました。実践的な職場体験の場として、教育効果、本校の魅力、知名度を高めるよう努めました。
- (3) 陶芸・ガラス創作学科は、社会人・一般生涯学習講座を、受講生のスキルに合わせ、初心者向けの「ベーシックコース」と既習者向けの「キャリアコース」の2コース制にし、受講生の満足度向上を実現しました。

《教育関係》

(1) 調理・フードコーディネーター学科

高齢者介護食にかかわる授業を導入することにより、介護を必要とする高齢者のための食の出る調理、季節感のある料理、見た目に美しい料理などの知識、技術を習得し、食のスペシャリストとしての幅を広げました。また、全員が高齢者介護食士の資格を取得出来ました。

(2) 製菓・製パン学科

より実践的な能力が身につくよう、自前のケーキショップ（倉芸工房）で、製造、販売等を体験することにより、今まで以上に、菓子店の実際を学ぶことができました。

(3) 陶芸・ガラス創作学科

陶芸作家コース及びガラス作家コースでは、建学の理念のもと、器を作る「知恵」（豊かな知識）、「喜び」（確かな技術）、「責任」（愛される人格）を持った人材を育成するため、科目内容の見直しを行い、教育内容の充実を図りました。

《施設・設備関係》

新学科、新コース設置のため、施設の改修工事、機器・備品を購入しました。

来客用トイレ1箇所、洋便器に変更しました。

来客・学生用駐車場に照明器具を設置しました。これにより、夕暮れ以降も安心して駐車場を利用することができるようになりました。

製菓実習用に石窯を建設いたしました。これにより製菓実習の幅が広がり、さらなる専門技術の習得ができるようになり、教育設備がより充実しました。

平成20年4月校名変更に伴い、正面看板他3箇所改修工事を実施しました。

教職員が持ち寄り、倉専果樹園を設置しました。熟れた実を調理・製菓実習で使用しております。

朝夕のJR新倉敷駅からの無料スクールバスの運行を始めました。さらに、JR茶屋町駅からも増便しました。多数の利用者があり、学生の交通の便がより充実しました。

入学者数・卒業者数等は下表のとおりです。

入学者数一覧

(平成19年5月1日現在)

	入 学 者	留 学 生	社 会 人
倉敷芸術科学大学専門学校	54	0	5

(単位：人)

卒業生数等一覧

	卒業 者 ・ 修 了 者	退 学 者	除 籍 者	休 学 者	留 年 者
倉敷芸術科学大学専門学校	48	6	0	0	0

(単位：人)

2. 学生の募集・広報

基本方針として、全教職員が広報担当として、より積極的に高校訪問等広報活動を行いました。

3. 就職活動状況

平成18年度に引き続き求人票の早期収集、早い時期からの就職指導等を行いました。

学生に対しては、挨拶、返事、言葉遣いなど社会生活の基本を指導するとともに、進路・就職希望調査の実施及び模擬面接、受験指導等を実施しました。

5月中旬からは、学生に対して、会社説明会、会社訪問の積極的参加を指導しました。

10月からは、就職未決定者にガイダンスを実施し、意識の高揚を図り、就職活動をサポートしました。

2月には、1年生に対して就職ガイダンス、インターンシップについての心構えの指導を行いました。

その他、学園が主催する各種就職ガイダンスに積極的に参加しました。

結果、就職希望者の就職率100%を達成しました。

4. 財務関係

主な収入及び支出

(単位：千円)

年度 科目	18年度決算額	19年度決算額
学納金収入	114,693	110,461
補助金収入	265	224
その他収入	4,021	3,425
帰属収入合計	118,979	114,110
基本金組入額合計	△ 981	△ 1,307
消費収入の部合計	117,998	112,803
人件費	132,158	115,426
教育研究経費	66,088	63,239
管理経費	28,830	41,515
その他支出	0	0
消費支出の部合計	227,076	220,180

○収支改善対策の具体的取組と効果

(1) 収入の増加

学生募集活動を強化し、オープンスクールの参加者は増加しましたが、学生確保につながらず、収入の増加が出来ませんでした。

附帯事業において、高齢者介護食士講座、菓子講座等により、収入増が出来ました。

(2) 支出の削減 経費の削減

不必要な電気はこまめに消すなど、基本に立ち返り経費の削減に努めました。